

科目名	サウンドスケープ論			科目コード	1912
開講学科	音楽学科	単位数	4	形態	講義
教員名	中川 眞				
授業の目的及びテーマ					
<p>テーマ：音を通して環境に出会う。</p> <p>目的：サウンドスケープの理論ならびに応用としてのデザインやアートのあり方を通して、音を媒介とした環境へのアプローチについて理解を深める。人は世界の中心ではなく、世界の一部であることをサウンドスケープを通して学んでほしい。</p>					
授業概要					
<p>マリー・シェファーが提唱したサウンドスケープの概念について、歴史的背景や現代音楽思想との交差に焦点を当てながら詳述することから始め、調査の手法を説明したのちに、「サウンドマップ制作」の野外実習を実施し、経験の学という側面に理論的・実践的に触れる。また、サウンドスケープの隣接領域であるサウンドアートについて、鈴木昭男、ロルフ・ユリウス、マックス・ニューハウス、ポール・バンハウゼン、藤枝守らの作品の詳述を通して考察する。そして、これらの思想、営為が現代においてもつ意味について考える。</p>					
授業計画					
<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：「聴く」ことについて</p> <p>第3回：サウンドスケープの定義と基本スキル</p> <p>第4回：内在の音へのアプローチ</p> <p>第5回：現代都市の音へのアプローチ</p> <p>第6回：平安京のサウンドスケープ</p> <p>第7回：サウンドアート(1)：鈴木昭男</p> <p>第8回：サウンドマップ野外実習(雨天の場合は日時を移動)</p> <p>第9回：サウンドマップ制作と合評</p> <p>第10回：サウンドアート(2)：ロルフ・ユリウス</p> <p>第11回：小説から聞こえる音</p> <p>第12回：サウンドアート(3)：マックス・ニューハウス、藤枝守ほか</p> <p>第13回：消費されるサウンドスケープ</p> <p>第14回：オリジナルの耳</p> <p>第15回：まとめ</p>					
テキスト	授業時に配布			参考文献	
評価方法：					
面接授業の出席点＋面接授業内での課題＋通信授業の提出課題3件により、総合的に評価する。					